

被災者の痛みを最大限に和らげ、魅力ある未来に繋げる 西原型災害公営住宅の提案

新たな集落 河原のくらし

■基本方針

- 「あんしん」
- ・被災して失ったこれまでのくらしを取り戻す環境づくり
 - ・次世代基準の住宅性能により、被災者にかかるランニングコストを低減
- 「あたたかさ」
- ・地域特有の気候に配慮した住戸配置
 - ・県産材をふんだんに利用したあたたかみのある木のすまい
- 「ふれあい」
- ・居住者間のコミュニケーションや高齢者の見守りに配慮
 - ・地域コミュニティと集落をゆるやかにつなぎ、親しみのもてる団地へ
- 「みらい」
- ・子育て世代や移住者も心地よく暮らせる魅力ある未来に繋げる住環境を整備

■河原敷地特性

- ・前面道路から3～6m高い場所にあり、周辺地域との接点を得にくい
- ・維持管理された良好な栗林を有している

■配置ダイアグラム

- ①メイン通路の設定 ②小道の設定 ③区域の設定 ④ユニットの設定



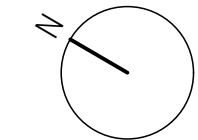
12戸の小単位集落を駐車場計画に合わせてユニット分けし、敷地入口に集会所、中心部にみんなの広場を設け、地域と繋がる集落を形成します。

■栗林

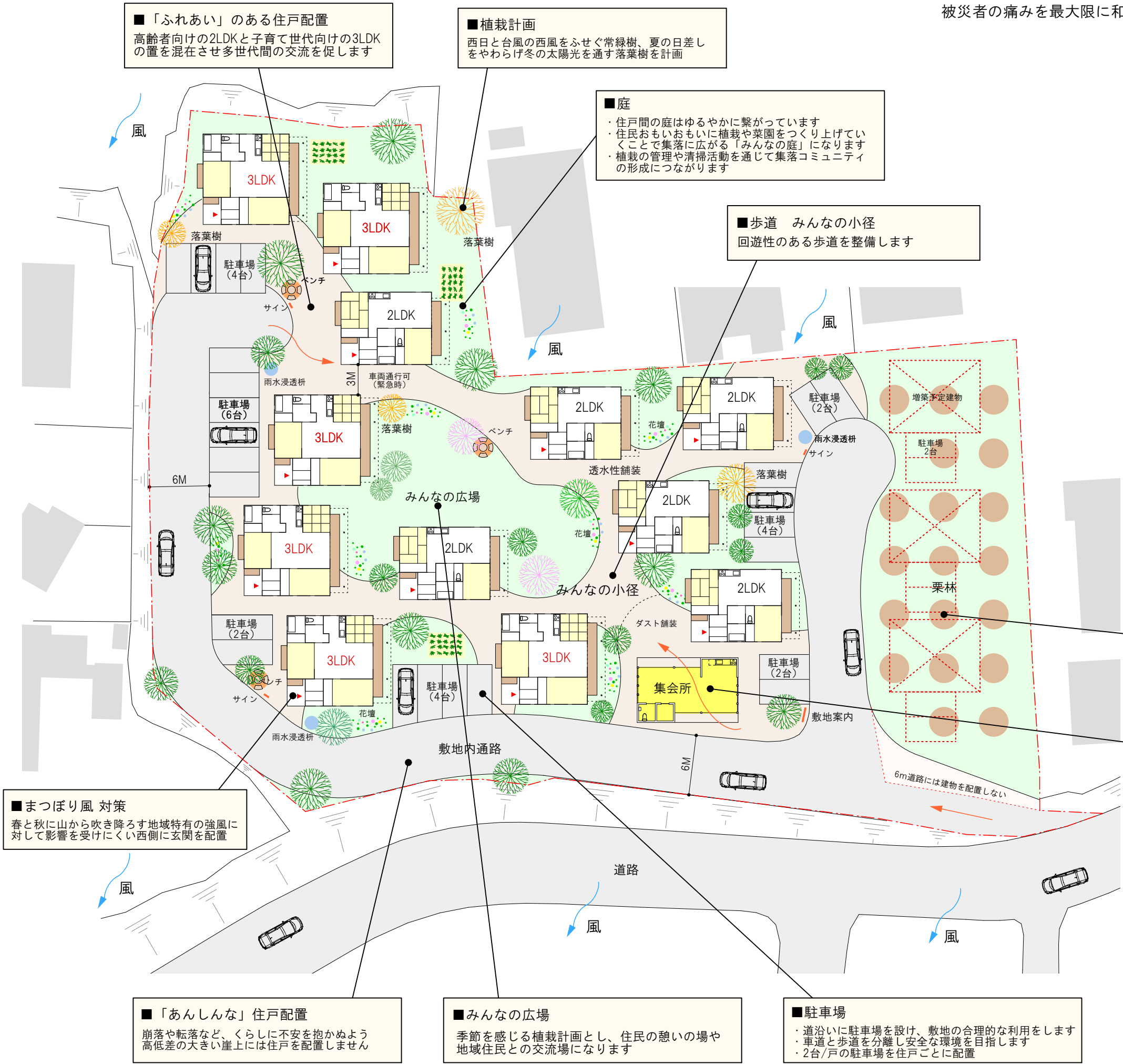
- ・手入れのゆきとどいた栗の木を一部残し、栗の収穫イベント等を通じ、近隣住民との交流を促します
- ・西原村への子育て世代定住促進として、増築可能なスペースを残しています

■「みんなの家」

- 西原村の大工さんとつくる集会所
- 団地と地域をつなぐ「ゲート」としての機能があり、集会所を通り抜け広場へ導かれます
- 建具：基本常時開放
(季節や使い方によって建具で閉じます)
- 床：全面土間コンクリート
- 最小限のキッチンとトイレ、収納は室内に
- 西原村の大工さんや職人さんと共に作り出す
- 住民の意見を取り入れ、長く愛される集会所を目指します

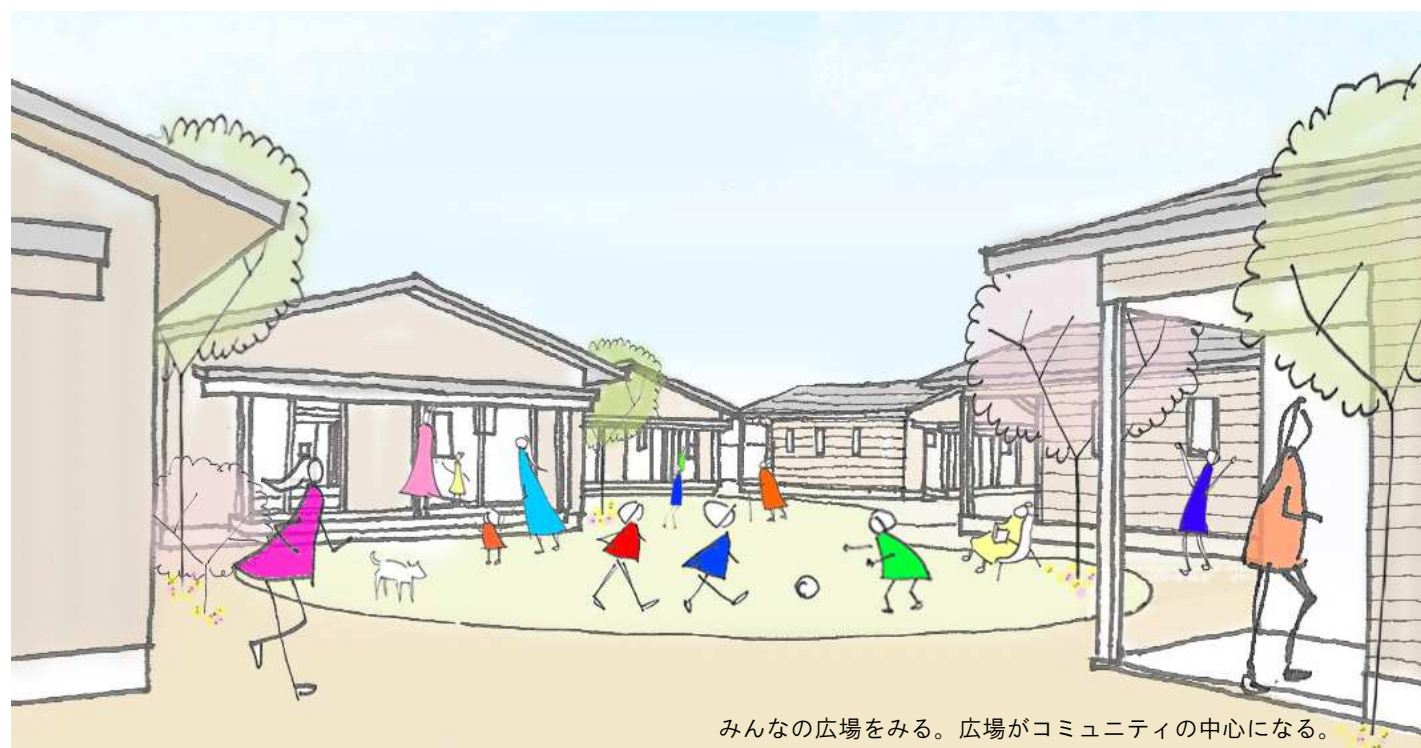


全体配置図 S=1:400





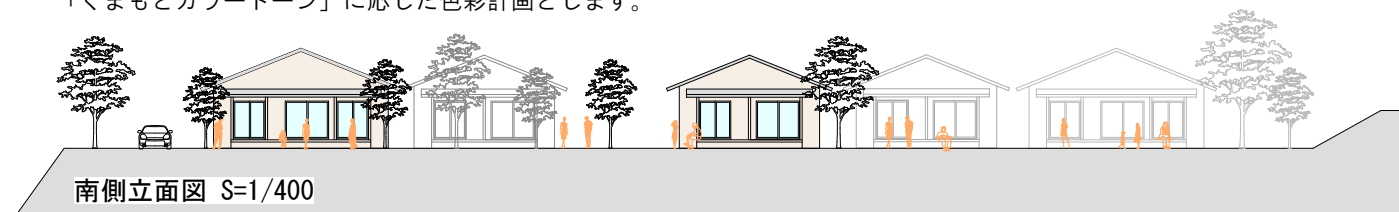
全体パース



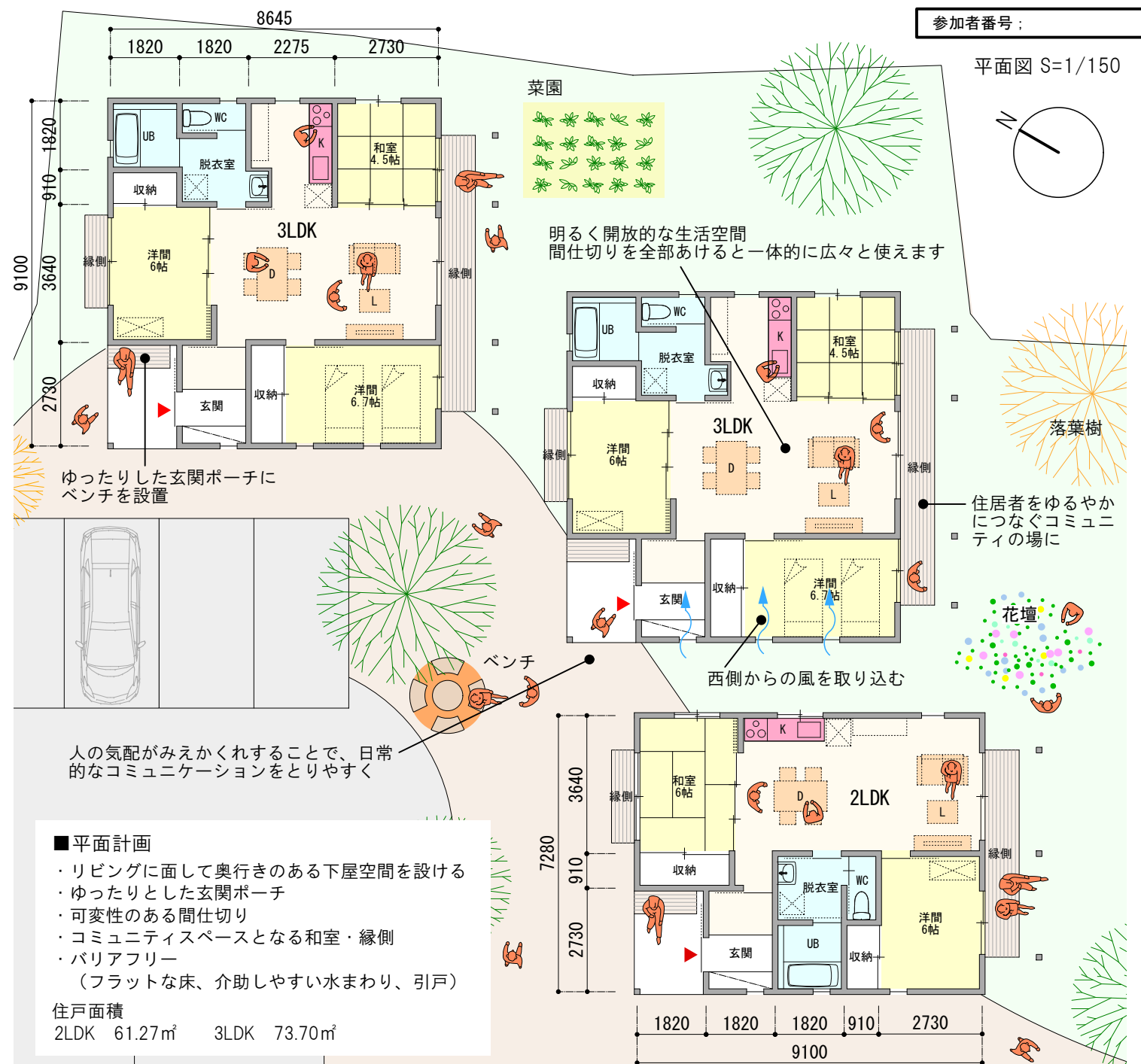
みんなの広場をみる。広場がコミュニティの中心になる。

■色彩計画・・・西原村らしい景観づくり

西原村の周辺環境になじむ屋根や外壁の素材、色を選定し、「くまもとカラー」に応じた色彩計画とします。



南側立面図 S=1/400

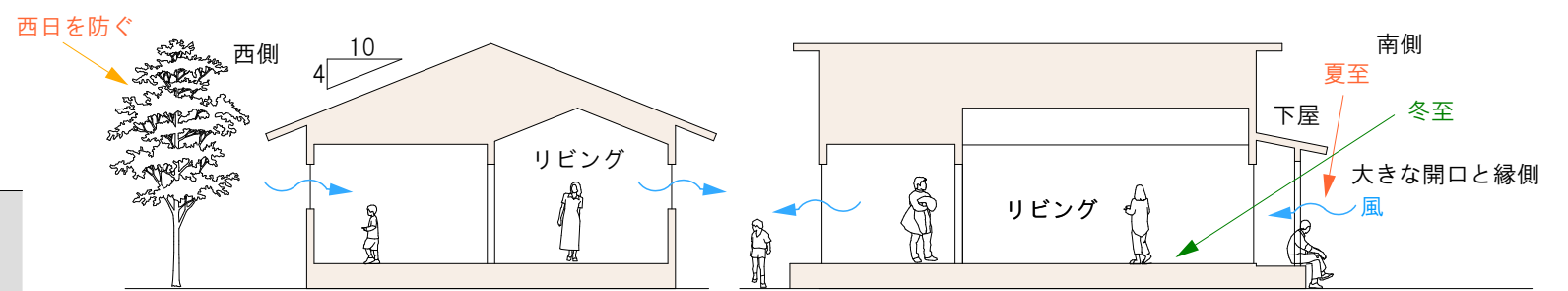


■住宅性能・・・被災者の痛みを最小化

- ・公営住宅こそ高断熱・省エネ住宅、2030年基準の断熱省エネ基準としランニングコストの掛からない快適な住空間にします。
- ・住戸内の温度差を無くし、ヒートショック等の影響を少なくした健康に暮らせる住まいづくりを目指します。
- ・調湿性能を持ち100%の施工が出来る断熱材を採用し、遮熱シート・ホルムアルデヒドを吸着分解する通気ボード等を使用します。
- ・性能維持のためLow-Eガラスを使用した断熱サッシを採用します。
- ・住宅性能評価で耐震・省エネ・劣化・維持管理など全てバランスの取れた快適な住まいを作ります。
- ・基礎断熱として床下空間も室内と同じ温度湿度として、床暖房無でも足元の寒さを防ぎます。
- ・熊本県産材（木材）を使用し、熊本県の循環型林業に貢献します。

■断面計画

- ・南北開口部を掃き出し窓とし、住まい方によりサブリビングや寝室を使い分けることができます。



断面図 S=1/150